2003年シンガポール調査（9月29日—10月2日）

報告者　センター助教授　恒　吉　僚　子

シンガポールは，国際テストでの高得点を背景に，国際的な関心が高い国である。国際テストにおいて，同じく高得点を挙げてきた国として評価されながら，国内においては学力低下論争が展開され，また，学習時間や意欲の減退などが指摘されている日本との比較で見た場合，政策，教育内容の諸側面において，シンガポールの例は合わせ鏡として興味深い役割を果たしうる。新しい学力観や21世紀型の教育方法，習熟度別指導や発展的学習などが盛んに議論されている日本への示唆を求めた場合，シンガポールにおいて，従来の算数・数学などの高い学力を維持しながら考える力をどのような仕組みや授業で育成しようとしているのか，日本で近年初等教育にまで降りてきている習熟度別指導を広範に取り入れている国として，その状況を理解することなども，有効であると思われる。

センターにおけるプロジェクトの推進と，シンガポールでの予備観察を含め，初等・中等教育の統一的教師訓練機関であるNational Institute of Educationの社会科と算数・数学チームとの意見交換，教育省でのインタビューや，算数・数学と社会科における問題解決的な授業観察，インタビューを行なった。

日程

9.28　シンガポール到着

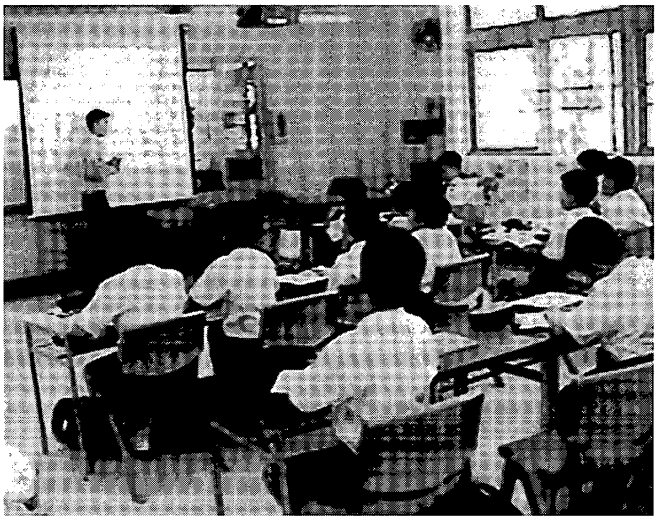
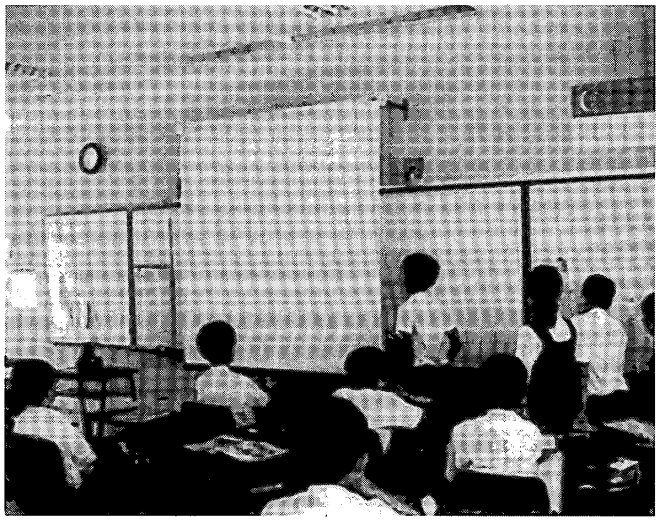
9.29　10：30-12：30　教育省（社会科，算数・数学）
　　1：30-3：00　Rosyth Primary School
　　4：00--　National Institute of Education

9.30　7：00　Anglo-Chinese School
　　午後　Bukit Panjang Government High School (junior high)

10.1　National Institute of Education, Nanyang Technology University　社会科，算数・数学科チーム
　　教師リーソースセンター訪問，資料収集

10.2　シンガポール出国

派遣者

秋田喜代美（学校臨床センター，基礎学力研究開発センター学校機能分析ユニットチーフ）
市川伸一（基礎学力研究開発センター学力基礎調査・分析ユニットチーフ）
恒吉僚子（学校臨床センター，基礎学力研究開発センター国際連携担当）

今後の方向性として，2004月6月にNIEの主催する協同学習の国際シンポジウムに参加し，共同研究メンバーを後期に招聘し，ビデオ・インタビュー調査で共同する予定である。